

## 【今週の注目疾患】

### 《劇症型溶血性レンサ球菌感染症》

2025年は第6週に4例の届出があり、累計届出数は13例となった。第6週時点では過去10年と比較し、昨年(2024年)に次いで多く、今後の発生動向に注意が必要である(図1)。

2025年に届出のあった13例の概要は、以下のとおり。

性別は男性7例(53.8%)、女性6例(46.2%)であった。年齢群別では60代及び80歳以上が各3例と多くなっていた。

また、2015年から2025年第5週までに届出のあった363例の概要は以下のとおり。

性別は、男性209例(57.6%)、女性154例(42.4%)であった。

年齢群別では、届出数の多かった2024年は、以前と比較し、30代、40代の割合が増えていた(図2)。

推定された感染原因・感染経路(重複あり)のうち、最も多く記載があったのは創傷感染で146例であった。

届出時点における死亡の報告は105例(死亡割合:28.9%:年別では15.6%~41.7%)であり、男性が65例、女性が40例であった。

血清群別では、A群が172例(47.4%)で最も多く、次いでG群が115例(31.7%)、B群が45例(12.4%)、C群が9例(2.5%)、その他・不明が23例(6.3%)であった(図3)。なお、2024年において、A群が占める割合は65.6%と2015年以降で最も高かった(年別では17.9%~65.6%)。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的に発症して急激に進行する敗血症性ショック病態である。初期症状としては四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下などで、発病から病状の進行が非常に急激で、発病後数十時間以内には軟部組織壊死、急性腎不全、急性呼吸窮迫症候群(ARDS)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こし、ショック状態から死に至ることも多い<sup>1)</sup>。その致死率は約30%に及ぶとされる<sup>2)</sup>。

原因菌には、A群、B群、C群、G群レンサ球菌が主なものとして知られている<sup>2)</sup>。

全国的に劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出数が増加している理由は必ずしも明らかではないが、2023年の夏以降、主な原因菌とされるA群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎の患者数が増加していることが要因の一つである可能性があると考えられている<sup>2)</sup>。なお、A群溶血性レンサ球菌では、日常よくみられる症状として、急性咽頭炎の他、膿痂疹、蜂窩織炎、猩紅熱があり、これら以外にも中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髓炎、髄膜炎などを引き起こすことがある<sup>3)</sup>。

図1: 2015年~2025年 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 性別届出数 (2025年第6週時点)

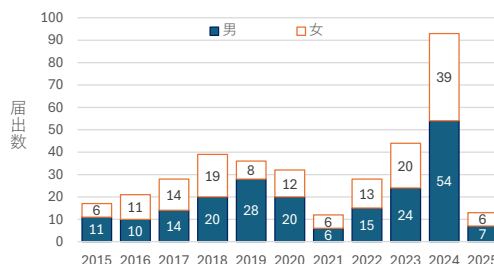


図2 2015年~2025年 年別・年齢群別割合 (2025年第6週時点 n=363)

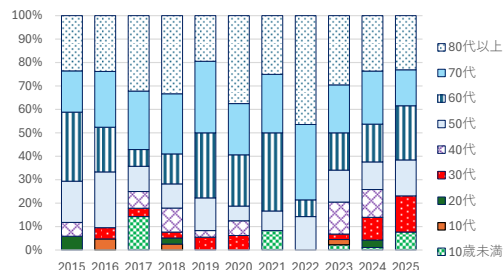
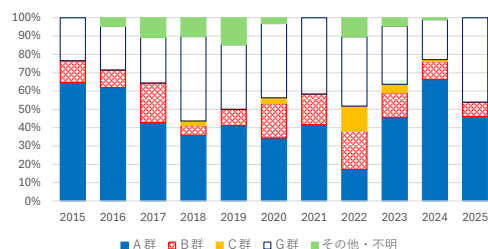


図3: 年別 血清群別割合 (2025年第6週時点 n=363)



以下、厚生労働省ホームページのQ&Aから引用<sup>2)</sup>

**Q** 日常生活ではどのようなことに気をつけたら良いのですか？

**A** 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に限らず、多くの感染症の予防には、手指衛生や咳エチケット、傷口の清潔な処置といった、基本的な感染防止対策が有効です。

また、発熱や咳や全身倦怠感などで食事が取れないなどの体調が悪いときは、かかりつけの医療機関などを受診しましょう。

「すぐに病院に行った方がよいか」や「救急車を呼ぶべきか」悩んだりためらうときに、医師・看護師等の専門家からアドバイスを受けることができる救急安心センター事業【#7119】に電話相談しましょう<sup>2)</sup>。

#### ■参考・引用

1)国立感染症研究所：劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/341-stss.html>

2)厚生労働省：劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html)

3)国立感染症研究所：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>